

## 第4回リニアまちづくり構想市民委員会 会議録（要約）

平成25年2月25日（月）  
午後2時から午後4時  
恵那市防災センター研修室

---

### 【会議次第】

市長あいさつ  
委員長あいさつ

### [協議・報告事項]

1. リニアまちづくり構想中間報告（案）について
  2. その他
- 

---

事務局 本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。ただ今からリニアまちづくり構想市民委員会を開催する。  
はじめに、市長よりあいさつを申し上げる。

---

市長あいさつ 本日はお忙しい中ありがとうございます。今、市では地域懇談会を開催している。2月7日から3月11日にかけて13地域で行う。その中で、リニアのまちづくりについて市民の皆さんにお知らせをして、ご意見をいただくようお願いをしている。その中で感じたことは、意外と関心が薄いということ。これは私どもの宣伝が足りないということで反省をしなければならない。皆さんからご意見をいただきたいと思っている。

市民委員会の皆様方には3つのグループに別けて検討をしていただいている。今日は中間報告案ということで提示し、検討されたことの報告がある。

先日、中津川の商工会議所・恵那市商工会議所の会頭、副会頭と両市の市長、副市長とで懇談を行った。これはこれからも行っていく。ここでも話題はリニアだ。お互いに連携という言葉がでている。まさにこれからも連携をしていくことが大事だ。

アクセス関係は瑞浪恵那道路については国、県に要望をしている。また、三河東美濃道路も要望している。これはまだ国の計画路線にもなっていないということで、計画に上がるようお願いをしている。

そういったことで、リニアを契機に地域のまちづくりを進めていくきっかけを作っていかなければならないと思っている。委員の皆様

---

	さん方の多くの意見をいただいてリニアのまちづくりの推進を図っていきたく思っているのです。よろしくお願いいたします。
事務局	続いて磯部委員長からごあいさつをいただく。
委員長あいさつ	皆様お寒い中お集まりいただき、ありがとうございます。私は大学の方で就職担当をしていて、いろいろな企業さんからの求人なども気になっている。JR 東海さんはリニア関連の人材はもう集めたと言われた。私どもは土木系の学生を育てているのだが、ここ数年 JR 東海さん、グループ企業を含め多くの人を採っていただいていたが準備は整ったということだ。 まちづくりにも準備が必要だ。本日はよろしくお願いいたします。
事務局	ありがとうございます。早速だが、議題に入る。議事の進行は委員長に願います。
司会(委員長)	では、本日の協議報告事項でリニアまちづくり構想中間報告(案)についてということだが、この中でいくつかに分かれている。 まずは現状分析、リニア開業効果について説明をお願いします。
事務局	(資料の説明)
司会(委員長)	ここまでで、ご意見ご質問はいかがか。
委員	影響に関すること。ストロー現象などへの懸念ということがあるが、これを無くすための施策をどう作っていくのかということや、騒音や振動、建設工事に伴う懸念に関しては今年の秋にルートが公表される訳だが、どのような状況で整備されるのかということはこの委員会できちんと確認をし、整理しておくことが必要ではないかと思う。工事に伴って影響が出た場合、起因が工事によるものなのかどうかということを現状確認しておく必要があると思う。
司会(委員長)	効果と影響は逆にあるもので性格が違うということだ。事務局何かあるか。
事務局	一般的なものを記載させていただいた。書けるものは書いていこうと考えている。
司会(委員長)	その他、いかがか。よろしければ、グループで議論していただいたことをグループから発表していただこうと思う。 まずはリニアを生かした観光振興・地域振興のための取り組みについて願います。
委員 (観光・まちづくりグループ)	まず、観光に関することだが、恵那市には観光資源が沢山あるが、それが他の地域と競争力があるかといわれると、もう少しブラッシュアップしないといけないということだ。それから、関西には比較的恵那の知名度はあるが、東京方面では恵那の知名度が低いということで、東に向っては広報活動を継続的に行っていく必要があるのではということだ。また、広域観光では他地域との交流もあるので、

委員 (観光・まちづくりグループ)	<p>連携が必要だ。</p> <p>それから、地区のお祭りなど外に向けて発信していくことができるものもある。これについてはさらにPRが必要だということだ。</p> <p>できそうなことでは、明知鉄道でのSLやDMVという事が書かれている。SLについてもすでに活動を行っている。また、DMVも法整備に向けた動きもでてきている。また、スロートーリズムということでの展開もしていきたい。</p> <p>次に食に関する事。恵那地域には沢山の食がある。ただ、これとってこれが恵那の食というものがなかなかない。このあたりも新たなものの開発も含めて発展していきたい。</p> <p>次に移住定住についてだが、転勤や通学などいろいろな都合がある。また、私の地域にもみえるが、二地域居住という事で週末は田舎で暮らし、平日は都会で仕事をするという方もある。空き家が整理されていたり、土地が動けば、恵那に住んでみたいという声も聞く。また、耕作放棄地が増えてきて外来種の草が生え、景観を損ねているので、考える必要がある。景観整備は大事なことだ。</p> <p>地域振興に関する事、まちづくりだが、いろいろな活動があるが、地域の皆さんと情報が共有されていないということをよく聞く。地域の方々がもう少し積極的に地域づくりの輪に入っていくということも大事ではないかと思う。みんなの気持ちがひとつになってまちづくりができていくと感じる。意識づけが大事だ。</p> <p>委員の中で補足説明あればお願いしたい。</p>
司会(委員長)	<p>ありがとうございました。他の委員の方で補足あるか。なければリニアを生かした産業振興の取り組みについて説明をお願いします。</p>
委員 (産業振興グループ)	<p>まず、関連企業の誘致に関する事ということだが、恵那という地域を生かすということで、東京・大阪からの時間距離はどちらも同じくらいということがある。また、自然災害が少ないということも有利になるということだ。このような日本の真ん中を生かすということが企業誘致のPRになるということがあった。具体的にはデータセンターなどのIT系の企業や、研究機関、大学の誘致ができるのではという意見があった。</p> <p>次にサービス関連企業についてだが、現在、駅前の商店街の活気が落ち込んでいるということだが、発展のためには商店街全体で地域として対策していく必要があるという意見があった。また、食と文化を融合して観光客を取り入れるといいという意見があった。具体的には、空き店舗が多いということなのでそういうところを生かして地元で根付いた食を提供できるようなレストランや、食と体験をセットにした企画をやっていくとどうかということや、サービスエリアにハイウェイオアシスを併設し、農産物の販売や商業サービ</p>

委員 (産業振興グループ)	<p>スを展開してはどうかという意見があった。</p> <p>次に地域資源・地域ブランドに関するのだが、現状としては地域資源として自然が豊かであるということ、また、自然があふれているがイノシシなどの有害な動物なども出るということだが、これをジビエ料理として提供してはどうかという意見があった。</p> <p>神奈川、山梨、長野にできる駅との差別化が必要だという意見があった。地域ブランドを磨き上げること。また、中津川市や近隣地域との連携を深め、岐阜県ブランドの知名度を上げる。その他、恵那テラスや道の駅を活用するといいといったことだ。また、このロケーションを活用して田舎体験などをしていったらいいという意見がでた。</p> <p>次に農林業に関することだ。現状としては優良農地が多いということで、恵那地域と農業、農村風景を生かしていこうということだ。農業をやりたいというニーズも多いということで、多くの人に来ていただいて、農業体験ができるといいという意見があった。</p>
司会(委員長)	<p>ありがとうございました。続いて、地域づくりを支える基盤整備の取り組みについて説明をお願いします。</p>
委員 (基盤整備グループ)	<p>基盤整備についてはリニアが開通することに伴って恵那市がどういうまちづくりをするのか、どういう基盤を整備していくのかということだ。別紙にある岐阜県のリニア活用戦略一次案に合わせていくという前提で、基盤整備の議論を進めてきた。</p> <p>まずは広域アクセスについては、リニアの駅ができることによって、乗車効率を上げるためには東西南北を含め交通アクセスが必要である。南へ向っては新城市へ向う東三河連絡道路の期成同盟会で活動をしていただいているが、国道418号あるいは県道豊田明智線というものを考えると、三河方面、豊田市、岡崎市を含め三河東美濃をもう一度考え直していく必要もあるのではないかという議論もあった。</p> <p>市街地に関することについては JR 恵那駅から北側を通ってリニア駅へアクセスする道路、中心市街地と新駅を結ぶ道路が必要。また、恵那病院も新しくなる。現在、県が行っている新東雲橋も含め、北側の状況が変わってくる。そういう意味では JR 恵那駅北側の整備の方向性も出していくべきではないかということだ。新駅へ向うルートでは県道苗木恵那線が中山道だが、ここは歴史と文化を大切に、保存しながら、歴史を活用したまちづくりを考えていくべきだ。これらを踏まえ、市道長島奥戸線と中津川市の市道をつなげ、リニア駅へのアクセス道として考えると、この部分を県道と市道を置き換えることが必要ではないかとのアドバイスをいただいた。基盤整備グループではその方向でお願いがしたい。</p>

---

委員  
(基盤整備グループ) これらを含めながら、恵那峡サービスエリアを中心としたスマートインターを設置し、ハイウェイオアシスを併設することが良いのではないかという意見があった。

まちづくりに必要な基盤整備では、リニア効果が13地域にどのように波及するか、うまく活用したまちづくりをどうするのかといった点では、移住定住のことなどからどのように基盤整備をする必要があるかを考えていく必要がある。今のところ駅へのアクセス道についての議論がされていて、今後、13地域のまちづくりに係わる基盤整備というものを考えていく必要がある。

---

司会(委員長) ありがとうございます。今グループごとに取り組みについてご説明があった。

この後には、目指すべき将来像についてだが、資料は空白になっている。小坂委員からご提案があるということだが、よろしいか。

---

委員 この目指すべき将来像については、基盤整備の会議で話がでて、いろんな項目ごとに検討を進めているのだが、恵那として将来的にどういう方向性を持てばいいのかということで、何か核になるものがあるといい。という話がでた。

そういう指針みたいなものがあるか無いかでは大きな構成の違いもでてくるのではということで、これを簡単に表せるような言葉はないかだろうということだった。この際考えてみてくださいと言われ、普通の言葉を羅列するだけで何かわかりやすい表現にならないかな、ということで数日間考えてみた。

サンプルとしては中津川市の原案なども聞かせていただいた。そういうものを参考にして考える時間をいただいたが、言葉で表すということが非常に困難な状況だということに気がついた。これをひと言で表すには、どうすればいいか、リニアが来ることを考えて、地域外の方から、恵那ってどういう所ということを知られた時に、こういうまちを目指しているのだよという表現ができないかと考えた。いろんな将来を考えると多くの人に移住して欲しいし、産業も発展して欲しいが何を軸にしてそういうことを考えていくのだということが目指すべき将来像を形にする要因なのかなということも思った。

お願いをされたが私はお手上げをした。すいません。無理だ。ということでお返しをさせていただいた。

事務局からは、この話を会議で話してもらえないかと言われた。私もこの恵那の中で仕事をしていく活動していく中で、この部分は大きな影響を及ぼしてくることなので、ぜひ、ここをみんなで、頭をやわらかくして考えてみるといった機会を作っていただけないかという風に思う。

---

---

司会(委員長)      ありがとうございます。目次でいくと現状分析、開業効果といった客観的な事実が最初にある。その次に目指すべき将来像というのがくる。今までだと行政側で、大きな目標をもって書くのだからということと思うが、せっかく市民委員会という事でやっているの、行政が考えたのでは寂しいなということがある。大きな目標があつてその後、それぞれの取組みが並ぶという組立てになるのかなと思う。この目標をどう組んでいくのかということだ。ぜひ、皆さんで考えていただきたい。

では、今までのグループ発表について、他の委員からご発言あるか。

---

委員      私は、岐阜県は清流の国ということだが、木曾川があまり大事にされていない気がする。大井ダムから落合までの区間では、リニア駅で降りて車で移動する時、川を渡って行く訳だが、木曾川の渓谷が見えるような仕組みを考える必要があると思う。

恵那市には木曾川と明知鉄道の2つがある。川は名古屋とのつながり、交通としてのリニア、明知鉄道の関係でつながる。恵那峡をもう少し表に出すことがあってもいいと思う。

---

司会(委員長)      恵那峡はひとつのブランドだ。観光にもなるし、恵那峡という名前を使っているいろいろなことが発展できるかもしれない。つながりがあると思う。恵那峡の水というキーワードで何かできるかもしれない。

---

委員      最初の市長さんのごあいさつで中津川市との連携という言葉が出た。中津川市のこういう会議に恵那市の方が出ておられる。恵那市の会議に中津川市からもおいでになっている。また、県からもおみえになっている。

中津川市のこういう会合の着地点、方針を決めるタイミングは、恵那は平成26年3月だが、中津川市はそれより半年くらい早いタイミングだったと思う。すべてのことに関して、キャッチフレーズについてもそうだが、恵那だけ、中津川だけということ考えていくわけにはいかないと思う。そこは行政側ですりあわせをして、着地のタイミングを揃えながら、それぞれの地域が勝手なことを言わないように、どちらも納得しながらこういう方向でいきたいと思います。

中間報告ということなので、今は考えられるいろいろな事項でそれぞれのバックグラウンドを背景にした発言がでていると思うが、当然、総論になっており、優先順位を決めたり、あるいは予算措置で恵那市だけでできること、県にお願いしなければいけないこと、国へ、というようなことを考えて仕分けをしていかなければいけないと思う。その上でキャッチフレーズ的なものが恵那市、中津川市

---

委員	<p>でそういうことをやっていこうということができるのではないかなと思う。そのように進めていただきたい。</p> <p>あとは、恵那らしさということがそれぞれの会合のときに沢山出てきたが、恵那らしさとはどういうことで具体的に表現できるかということがあまり話されていない。恵那に、生まれて、恵那に住んでこれからも恵那で生きていくということで恵那らしさということでまとめて、こんないいところはないという風になりがちだが、これをしっかりと発信できることとか、他の地位と比べて競争力がある。というものが作られてないと恵那らしさというものは決して商品にならないという風に思う。他の競争力というものを考えながら、優先順位へ結びつけていただければ、より競争力の強い恵那らしさになるのではと思う。</p>
司会(委員長)	<p>ありがとうございます。中津川市さんとの足並みのそろえ方など事務局からご説明お願いします。</p>
事務局	<p>この委員会としては、25年度の終わりまでに最終のまとめを予定している。先ほどお話があったように、中津川市さんは少し前にまとめをされるというご意向だ。恵那市としては岐阜県や中津川市が進められるものと不整合にならないようにということで、どちらかという後から追いかけるような形で進めていく。</p>
委員	<p>中津川市とうまく整合をとって頂きたい。最終段階では着地を同じになるようにしていただきたい。</p>
企画部長	<p>中津川市との関係について説明させていただく。中津川市とはお互いに会議に出席しあって情報の共有をしている。これとは別に事務局同士で具体的な話し合いを定期的に行っている。また、県のリニア推進事務所が中心となって県・中津川市・恵那市の会合も行った。そういう意味で連携は取れている。これからもやっていきたいと思っている。</p> <p>キャッチフレーズについて、中津川市と一緒に共通でというのは難しいと思う。また、恵那らしさとは、各グループからお話があったようにいろんな資源があって、それを外に向けて恵那市とはこういうところだということで話をする訳だが、あれもこれもということになると長くなってどういった町なのかが解らなくなってしまうので、切り捨てていって最後に残ったもので、恵那市とはこういうところですよということにし、小板委員がおっしゃったように頭をやらわらかくして考えていくのがいいと思う。</p>
竹内アドバイザー	<p>今みなさんが行っているこの議論がいい。いろんな人がいろんな考え方を述べるべきだ。どんどん議論を深めていってひとつのキャッチフレーズにまとまっていくと思う。私は中津川の委員会の座長もやっており、先々週に会議が行われたのだが、まさにキャッチフ</p>

---

竹内アドバイザー レーズの議論で大論争になり、いくつかの案を出したのだが、田舎の良さを出していこうということで、便利な田舎町という言葉があり、この田舎町に対して大激論だった。これはそう簡単には決まらないけれど皆さんで議論していくことが大事。

この問題に関しては中津川市と一緒にやっっていこうというのはかえって個性を失ってしまうというか、恵那の良さが出てこない、調整に入ってしまうとうまくいかない。ここは恵那らしさというのを出して、中津川のことは気にせず、議論されて行った方がいいのではと思う。

恵那らしさとは何だろうと言うと、私は映画青い山脈がいいと思う。この地域の良さは青い山脈に象徴されている。ただ、映画青い山脈というのは私が調べた所では、映画が5つできている。一番古いのが1949年。その次が1957年。その次が1963年。それから1975年。1988年。これが最後。新しい青い山脈もある。最近、映画青い山脈のロケの町だと言って、観光宣伝に使っているまちは青森県の弘前市だ。この青い山脈は1988年の最後のものだ。

恵那は2つ目、1957年の作品のロケ地になった。残念ながら映画としては最初のものの方が有名だ。ただ、最初の映画は白黒だ。東北の山、海岸でも撮影している。ロケ地は解らない。松林監督も第1作目のロケ地はよく解らないといわれていた。

松林監督もロケ地を探していて、列車で恵那山を見て、ここだと思って、飛び降りたのだというのを聞いたことがある。それで第2作目ができた。松林監督がおっしゃるように青い山脈の原作の精神を表現しているのが恵那だ。青い山脈がこの地域の特色としていいというのは、ただ、山がきれいで青々としている。という景色だけではない。この映画というのは若者達が戦後の新しい民主主義の風を受けて伸び伸びとし、青い空の元、自転車に乗って舗装がしてないガタガタの道をみんなで自転車で走り回るんですね。この青春のうきうきとした雰囲気、これが大事だ。

青い山脈の青いというのは山の青さだけでなく青春の青さ。そういうものが自然の風景とともに表現されている。そういう伝統を持ったところだという事が恵那の強調すべきところだ。

そういうことを念頭においてキャッチフレーズだとかいろいろなまちづくり、地域づくりの話なんかをやっていく。今はいろいろなことが沢山ならべてありますがこれを体系的に整理していく作業が今後必要だ。

---

司会(委員長) ありがとうございます。いろいろあるものを外の人に向けて発信することや、中の人に向けて発信することなどやりかたはある。ぜひ今後検討を進めていただきたい。目指すべき将来像はじっくりと

---



司会(委員長)	話し合って決めていく必要があると思う。
	今後の進め方について事務局から願います
事務局	今年度は今日の会議をもって終了するが、来年度4月・5月ぐらいで今日の会議を受けた結果、また、キャッチフレーズのこともあるので、別に議論をしたい。春先に第5回の委員会を行いたいと考えている。そこで、いったんまとめて、中間報告ということで公表させていただきたいと思う。
	それから、現在各地域懇談会で地域のまちづくりについて各地域でお願いがしてある。こういったものが6月頃までにはあがってくるので、これを折り込みながら以降の会議を進めて行きたいと考えている。それから秋にはリニアの詳細ルートなどが公表さる。そういった事などを含めて10月、12月に委員会を予定している。最終は来年の3月にまとめる作業をしていきたいと考えている。
司会(委員長)	岐阜県でやっておられるリニア活用戦略の一次案がある。これについては県の会議にも出席していただいている竹内先生からコメントをいただく。
竹内アドバイザー	お手元にリニア活用戦略一次案というものが配布してある。県の研究会は、県下全市町村の副市長や部長さんたちが集まってやっている。ここに私も出席している。これは先週金曜日に行われた会議の資料だ。この中から説明させていただく。
	前の方は恵那市の報告にあったものと同じようなものだ。割愛させていただく。20ページには昨年試算された駅の利用者数が載っている。これにさらに見直しをかけたのが次のページにある。岐阜県駅の利用者数は3,517人。それに色々な施策を施すと4,932人だ。目途としてはこれくらいの人利用する。現在の岐阜羽島駅より多い数字になる。1時間に1本だと3,517人。1時間に2本止まれば4,932人というぐらいでみていただければいいと思う。
	こういうことを根拠に経済効果を測定すると、どうだろうというのが次のページから書いてある。ここは見ておいてください。
	30ページからは、リニアの効果を活用して県土づくりをやっていく戦略として考えた4つがある。1つめは、リニアを生かした観光交流人口を拡大しようということ。2つめはリニアを生かした県民の新たな住まい方を考えようということ。より便利なものにしていくんだということ。3つ目はリニアを生かして産業の活性化をしよう。これを実現するために4つ目の基盤整備をやらなければいけない。といことだ。この構造は恵那市の場合と同じだ。
	今、お聞きして恵那の場合はこの戦略2.新たな住まい方の実現というあたりのことが少し弱いのかと感じる。観光客誘致、産業誘致ということを考えておられるが、あと自分たちの暮らしをどう

---

竹内アドバイザー 便利にしていくかという事でこの際リニア新駅のために作る基盤整備を利用して、自分たちの暮らしぶりも便利にしてしまおうというようなことが少ないのかなと思う。

次に紹介したいのは、基盤整備に関する問題だ。リニア駅及び駅周辺整備をどうやっていくかということが書いてある。基盤整備の元になる人々の動きをどうみるか、どう変わっていくかという図がある。ここで大事なのは岐阜県全体としては2正面作戦を取らなくてはいけないということだ。リニア新幹線を生かして県土全体に影響を大きく呼び込むためには、岐阜新駅だけではない。リニア新幹線によって名古屋駅が変わる。名古屋駅前は首都圏の一部になってしまうということだ。そこが岐阜県のすぐ隣にあるということなのでそれをうまく利用しなければならない。これは東海道線を使って岐阜に入ってそこから岐阜全体に影響を呼び込むというのもあり、東濃にできるリニア新駅を使うパターンだけではないということが表してある。もうひとつ大事なところはリニア岐阜県駅から下に豊田・瀬戸とある。これは、岐阜県駅の問題は岐阜県だけの問題ではない。ということ。愛知県の一部にとっても大事なことだ。というところが大事なことだ。そういう考え方をしていくということだ。

71 ページでは駅周辺に必要な機能がでてくる。これは盛りだくさんになっており、これを口実に駅周辺に大きな開発がされることがあるかもしれないがそれは注意する必要がある。ここに多くの項目が書いてあるが、必要な機能が列記されているだけだ。連絡施設と商業エリアを一緒にしたいという意味もある。この連絡施設のラウンジから恵那山がみえるのがいいというパースも載せてある。

73 ページの図面ではアクセス道路を考えなければいけないかということで、大きなものは南北アクセスで濃飛横断自動車道の整備の整備がある。それと同時に大事なのが、リニア新駅と中津川の市街地、恵那の市街地を線路の北側で結ぶ道路が必要だということだ。これは中津川市から恵那市へ1本で結ばれるのが大事。また、東西アクセス軸の強化として、瑞浪恵那道路が必要だということが書かれている。これは恵那市だけで考えれば少し不満が残るのではと思う。豊田明智線なども含まれた道路が必要だということが表現されているといいと感じられるかもしれない。この点については早いうちに合意に達して県の方に上げていく必要があると思う。

もうひとつは鉄道アクセスだ。岐阜 新駅間を60分程度で結ぶ快速列車ということだ。これは恵那にも止まる。これは中央線の利便性を向上させるという主張だ。

これは一次案だが、このようにまとまっている。

---

---

委員 一次案について委員会へ反映させることがいいと思う。委員会としても十分詰めながらいきたい。鉄道に関しては木曾谷へ向っていくには不便がある。県都に向っていけば、東海道線経由も考えていくべき。これをこの委員会の構想に盛り込むべきか。

---

司会(委員長) 私はそれらはきっかけだと思う。2027年までにできることなどを整理していけばいいかと思う。その他意見はあるか。  
ありがとうございました。本年度の委員会はこれで終る。また来年度も続くのでお願いしたい。これで進行を終了する。

---

市長あいさつ ありがとうございました。いろいろなご意見をいただいた。市民の中でも温度差があるので懇談会を行い地域で説明をして、意見を求めている。  
本日は長時間にわたりありがとうございました。

---